

4641 アルプス技研

今村 篤 (イマムラ アツシ)

株式会社アルプス技研社長

稼働人数・単価の伸びが業績を牽引し、2桁成長を達成

◆2017年度12月期第2四半期決算概況

当社の主要顧客である製造業界の輸出動向は持ち直し、自動車業界の対前年同期比国内生産はプラス7.8%と好調に推移した。さらに、自動車業界は環境車、自動運転、AI、つながる車と言われる中で、国内大手各社は昨年を上回る研究開発費の投資を行った。人材業界は堅調な派遣要請のもと高稼働率を維持したが、採用に注力するメーカーおよび技術者派遣業への参入増加により人材獲得競争が激化している。

このような環境のもと、連結業績は、売上高145億16百万円(前年同期比17.8%増)、営業利益14億33百万円(同14.2%増)、経常利益14億38百万円(同10.2%増)、四半期純利益9億7百万円(同10.9%増)となった。個別業績も売上高121億57百万円(前年同期比10.9%増)、営業利益13億24百万円(同13.1%増)、経常利益14億81百万円(同15.6%増)、四半期純利益10億13百万円(同24.1%増)と、連結・個別ともに2桁成長となった。連結売上高営業利益率9.9%(同0.3%減)の主な要因は、処遇改善に伴う原価増、販管比率の低下によるものである。

主要指標については、6月末現在の技術社員数3,133名(前年同期比253人増)、稼働人員2,998名(同262人増)、契約単価3,894円(同46円増)、稼働工数172.8時間(同2.4時間減 ※上期平均)となった。客先での長時間労働抑制の取り組みが進む中で、稼働工数は減少傾向が続いている。契約単価は、技術者の需給が逼迫する状況の中で上昇傾向にある。

新卒稼働の早期化が年々進む中、今年は6月末迄に新卒全員が稼働決定するという目標を達成した。新卒は入社後に研修・教育を受けるため、稼働率は第2四半期に一旦下がり、そこからの回復スピードが業績に寄与するが、当期は昨年の1カ月前倒しで、全員の稼働が決定した。

最終製品に紐付ける形で分類している業種別売上高の割合は、自動車関連40.3%、電機関連7.2%、精密機器関連13.4%、半導体関連15.6%、工作機械2.4%、ソフト開発2.5%、再生可能エネルギー0.5%、医療系6.3%、航空宇宙防衛2.9%となっている。自動車関連は前年同期とほぼ同割合であるが、売上高は増加している。半導体関連、医療関係も増加傾向にある。

売上上位10社では、1位の三菱電機も自動車関連の要請増加の影響があるなど、自動車、半導体関連の需要が堅調である。上位比率は19.8%と更に下がり、顧客構成の裾野が拡大した。

◆チームアルプスの取り組み

個別施策として、1. 挑戦の採用、2. 挑戦の教育、3. 挑戦の営業を挙げている。

採用については、全社協力採用体制の定着、顧客ニーズに合わせたキャリア採用に注力し、新卒250名、キャリア120名の達成目標を目指す。昨年に引き続き中国、ベトナムを対象に、40名前後のグローバルエンジニア採用拡大に努める。

教育では、事業部と連携し、資格受験率向上、社内認定講師の増加に注力する。また、キャリアパスに関する

研修機会の充実により、長期キャリア形成を促進する。

営業では、6 月中に新卒全員の早期稼働決定が実現した。これにより秋のグローバルエンジニアの営業に注力、キャリアターゲットローテーションの促進という営業の年間サイクルが確立し、実単価も上昇している。

通期施策について、まず国内事業では、(株)アルプスビジネスサービスとの連携により、グループ協働強化、事業拡大・社員育成を推進する。さらに、昨年 9 月にグループ入りしたパナ R&D の請負力の強みと当社とのシナジー効果を追求し、採用・営業連携により、ブランドを確立して企業規模の拡大を図る。

グローバル事業では、台湾・上海の各現地法人において、工場設備機器の設計、製作、据付等を受注しており、今後事業規模拡大を見込んでいる。また、2003 年に創業者が私財を投じミャンマーで介護スクールを開校し、人材育成に注力してきたが、今後介護人材関係が本格始動する見通し。さらに、グローバルエンジニア採用拡大・定着化に注力してグループ成長を加速し、グローバル企業グループを目指す。

中長期成長ビジョンは、既存事業の強化・新規事業への挑戦である。AI や IoT、ロボットなどにより、最先端技術(高単価ゾーン)の開発設計業務もカバーしていく。また、グローバルという視点では、台湾・上海を中心にミャンマーも含め、積極的に展開していく。

来年、創業 50 周年を迎えるにあたり、新規事業の可能性を検討している。「技術者派遣」という大黒柱はしっかりと成長させ、これに新しいドメインをつくることも意識していく。介護人材ビジネスや、異分野開拓としてアグリ分野の検討を進めている。すべての分野で M&A も可能性があれば検討する。

なお、当社は今年 4 月から企業ブランディングを始動した。学生・社員向けにブランディングを強化し、広告等で訴求する。

◆通期連結業績予想

前年同期比では 2 桁成長を達成したが、期初予想比では売上高は若干増、利益は一時的なコスト増によりわずかにマイナスとなった。通期では業績予想達成を目指す。

連結目標では、売上高 290 億円(前期比 8.4%増)、営業利益 30 億 70 百万円(同 7.5%増)、経常利益 31 億 70 百万円(同 7.5%増)、当期純利益 21 億 30 百万円(同 7.1%増)の計画である。個別では、売上高 240 億 30 百万円(同 6.3%増)、営業利益 26 億 60 百万円(同 6.1%増)、経常利益 28 億 30 百万円(同 6.0%増)、当期純利益 19 億 30 百万円(同 9.8%増)を予想している。

配当については、連結ベースでの配当性向 50%を基本とし、中間配当金は年間配当金の 50%を目処とする。また、安定配当の見地から、業績にかかわらず年間配当 20 円を維持する方針である。これにより、中間配当 52 円を確定、年間では最高配当を更新する 104 円を予定している。

◆中期経営計画

当社は 2018 年 7 月に創業 50 周年を迎える。定性目標である第 10 次 5 年計画のテーマは、「イノベーションによる企業規模の拡大～創業 50 周年に向けた成長の加速～」である。その中で 3 年ごとのローリングプランを策定し、新分野への取り組みや M&A を実施してきた。2018 年度は売上高 312 億円、営業利益 32 億円、経常利益 33 億円、当期純利益 23 億円、ROE18%以上の達成を目指している。

施策の第 1 の柱は、技術、産業の変化を先取りし、高度で多様な技術サービスを提供することである。新卒の早期稼働決定も含め、営業体制を変革し、チーム化・請負化の推進、顧客満足度向上、高度技術者集団としてのブランドを確立する。

第 2 に、関係会社の自立、成長により、当社グループの規模拡大を加速する。昨年、(株)アルプスカリアデザインを(株)アルプスビジネスサービスに統合し、新しくパナ R&D がグループ入りすることで規模拡大を実現した。

第 3 に、アジアに展開するグローバル企業グループへの躍進を目指す。東南アジア、ベトナムからの採用も含め、ミャンマーでの人材育成に注力している。

創業 50 周年を迎える 2018 年は当社にとって大きな節目となる年である。この 50 周年をひとつの区切り、第 1 創業期と位置づけ、これから先の第 2 創業期は新しい成長ドメインを創造していく。

◆ 質 疑 応 答 ◆

グローバル事業における不採算案件の詳細を教えてください。

中国で、事故のため一時的に原価増となる案件が発生した。本件は一過性であり、これ以上の原価増にはならないとみている。

テレビ CM は今後も通年で継続する予定か。

効果がある地域に限定して継続するか、全国的に行うか検討中である。今後、状況を見て判断する。

当期の採用状況、現在の進捗を伺いたい。

新卒はほぼ計画どおりの進捗、キャリア採用は事業部との連携で既に年間目標(120 人)に近づきつつある。

2018 年度、2019 年度の採用目標を伺いたい。

売り手市場の中で判断していくが、レベルを下げてまで採用はしない。ただ、アルプスビジネスサービス等の中・下流工程および介護・アグリ等の新分野は増やす方向で計画している。

中期経営計画最終年度の業種別売上高構成比の見通しを伺いたい。

自動車関連と半導体関連は要請が強いが、現在の構成比率で売上高を伸ばしていくイメージである。ただ、半導体関連はもう少し拡大してもよいと考えている。

半導体に意図的に注力していくのか。

半導体だけに注力はしない。今の要請レベルに合わせて上げていく。

M&A の対象として、同業他社、海外、新規事業等の優先順位を聞きたい。

M&A は企業文化が合うことが必須と考え、企業文化の近いところを優先的に、積極的に行う。介護とアグリについては模索中である。

当社は有料老人ホームを運営していたが、箱物から当社の強みである人材サービスに方針を転換し、介護人材を教育して派遣・紹介する動きにシフトしていく予定である。

アグリについても、就農人口が減少する中、効率化、IT 化が求められ、アグリとテクノロジーが一緒になったアグリテックのニーズが増えており、農業作業者ではなく農業技術者の紹介などの可能性を検討している。

(平成 29 年 8 月 9 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.alpsgiken.co.jp/ir/library/pdf/data/ir20170825.pdf>